

埼玉医科大学病院 地域医療連携ニュース



No. 14

2022.5.1

ごあいさつ

副院長 池園 哲郎

世界に類を見ない日本の超高齢社会においては、地域の状況に合わせたより良い病診連携を構築することが求められ、「双方向の情報連携」が大きな課題となってきました。

- 紹介する側の地域の診療所等では、患者の同意を得て診療情報提供書を添えて紹介を行うことで【診療情報提供料(I)】を算定します。
- しかしながら、紹介先の病院が、紹介元である地域の診療所等に対し、患者の同意を得て診療状況を示す文書を提供することを評価する診療報酬は、従来ありませんでした。これでは「紹介元→紹介先の一方通行の情報提供」となってしまうため、前回改定で「紹介元←紹介先」の情報提供を評価する【診療情報提供料(Ⅲ)】が新設されました。今年度改定ではこれを【連携強化診療情報提供料】と名称変更し、算定可能なケースと回数が拡大されました。

このような新たな「双方向情報連携」を当院でも推進していく所存です。職員スタッフ一同、日々、前向きに地域連携に取り組んでおります。これからもより良い医療圏の確立へむけて、ご指導をどうぞよろしくお願いいたします。

※池園副院長（写真左下）【専門性の高い耳の手術風景】

Contents

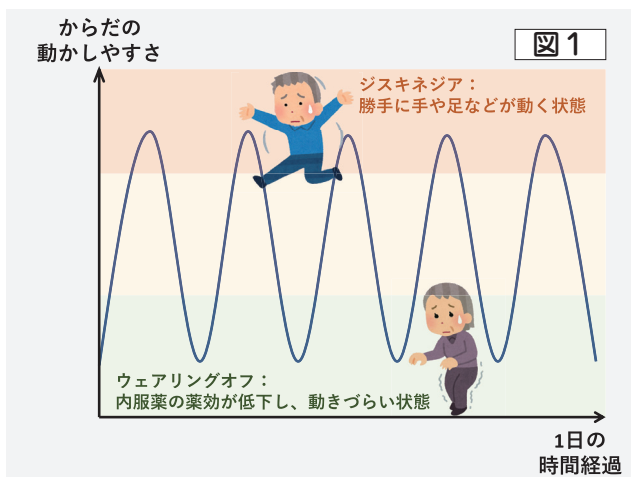
ご紹介	2
特殊な治療のご紹介(脳神経外科)	
診療科のご紹介	3
消化器・一般外科 リハビリテーション科	
医師のご紹介	4
呼吸器内科 消化管内科	
病院長からのメッセージ	
看護部から	5
カルナ（インターネット予約システム）について	6
電話初診予約について	7
提携医療機関から	
秩父市立病院	6
エンゼルクリニック	7



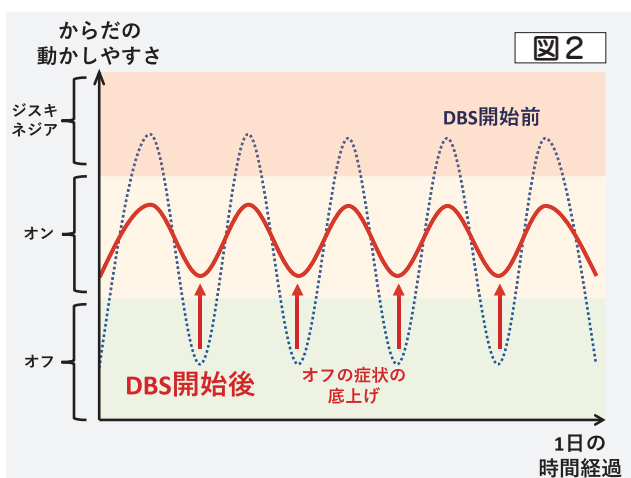
特殊な治療のご紹介

今回は、脳神経外科で行っている脳深部刺激療法 (Deep Brain Stimulation:DBS) についてご紹介致します。DBS は脳内に留置した電極で標的を電気刺激することで、その異常な神経活動を制御する治療法です。日本では2000年から保険適応となり、パーキンソン病、本態性振戦、ジストニアなどを対象に行われています。

パーキンソン病は固縮、無動、安静時振戦などをきたす疾患で、病初期はL-DOPA 製剤などの内服薬で症状は良好にコントロールされます。しかし発症から数年経つと、ウェアリングオフや、ジスキネジアといった運動合併症が出現します (図1)。



DBS はオフの症状を底上げし、症状の日内変動を改善することができます (図2)。



DBS の標的には視床下核が用いられることが多いですが、我々は術後に精神症状をきたすリスクが高い方には淡蒼球内節のDBSも積極的

に行っています。また、内服治療に抵抗性の振戦に対しては視床腹側中間核のDBSも多く行っています。

本態性振戦は主に姿勢時や運動時に手足等に律動的な震えが生じるもので、40歳以上の人口の5%程度にみられる頻度の高い疾患です。 β ブロッカーなどでの内服治療が効果不十分な際は、DBS または凝固術が多くの場合有効です。

ジストニアは眼瞼痙攣や痙性斜頸、書痙といった疾患の総称で、身体の筋肉が持続的に緊張することで様々な動きや姿勢の異常を生じる疾患です。抗コリン薬など内服薬での治療に抵抗性であることが多く、そのような場合にボツリヌス治療やDBSなどが考慮されます。

開業の先生方へ医療連携のメッセージ

平素より大変お世話になっております。内服治療ではコントロール困難な症状でも、DBSで大きく改善できることがあります。DBSの適応に迷われる患者さんや、まずは説明だけを希望される患者さんでも、お気軽に下記外来にご紹介頂ければと存じます。何卒宜しくお願い申し上げます。

【パーキンソン病・機能的脳神経外科外来 毎週月曜日・火曜日】

脳神経外科 氏原 匡樹
外来 ☎ : 049-276-1287



● **消化器・一般外科 准教授 浅野 博 (アサノ ヒロシ)**

当科は外科専門医7名、消化器外科専門医3名、大腸肛門病専門医1名、内視鏡外科技術認定医1名が在籍し外科疾患全般を対象に診療を行っています。胆石症やヘルニア、内痔核などの良性疾患などをはじめ、胃癌大腸癌などの腹部の腫瘍性疾患など外科的治療の適応と判断されましたらご紹介ください。

近年の高齢化に伴い高齢者でも手術をうけられる患者さんが増加しています。ご紹介いただいた際には十分なリスク評価を行い、手術の適応や他の治療法もふくめて相談させていただきます。また、さまざまな基礎疾患によって手術を躊躇されている患者さんにおかれましても各診療科と連携し最適な治療

を検討させていただきます。

近年、外科手術における腹腔鏡手術の割合が増加しており、当科でも様々な手術で腹腔鏡を取り入れ、約6割の症例を腹腔鏡下で行っております。すべての症例が腹腔鏡手術の適応とはなりません患者さんと相談のうえ希望にそえますよう配慮致します。今後とも連携医療機関の先生方のお役に立てますよう地域医療に貢献していく所存です。



集合写真2022年1月(前列左から2人目 浅野准教授)

診療部長のご挨拶

平日、月曜日から土曜日まで外来を開設しています。消化器疾患におきましてはどの曜日においても対応可能です。甲状腺疾患におきましては専門外来を開設しております。ご紹介いただきました患者さんに対しては十分に相談のうえ最適と思われる治療を提供させていただきます。今後とも引き続きどうぞよろしくお願い申し上げます。

消化器・一般外科 診療部長 浅野 博
外来☎：049-276-1285

診療科のご紹介

● **リハビリテーション科 教授 篠田 裕介 (シノダ ユウスケ)**

当科は、常勤医師3名、非常勤医師4名、専攻医1名、理学療法士26名、作業療法士13名、言語聴覚士2名で診療を行っております。以前は、リハビリテーション科病棟がありましたが、2020年4月以降は、主に大学病院入院患者や退院後の患者を中心として、西館2階のリハビリテーションセンター及び各科病棟において診療を行っています。健康者でも10日間の安静で下肢筋肉量が6.3%減少すると報告されていますが、疾病があると大腿四頭筋断面積が18%減少し、手術侵襲によりさらに筋肉が分解されることが知られています。

近年の研究で、筋肉量、筋力の減少、ADL低下

が合併症の発生頻度や生命予後にも関わることが明らかになってきており、極端に言えば大学病院に入院する急性期のすべての患者がリハビリテーション治療の対象となり得ます。リハビリテーション治療を行うことでADLが改善すれば、QOL向上だけでなく、全身状態の改善にもつながり、自宅退院を目指す患者が増えると考えられます。少しでもADL上の問題がある患者は当科にご紹介いただけますと幸いです。また、嚥下造影検査(土曜日)、装具外来(火曜日)、義足外来(木曜日)、骨転移外来(随時)も行っておりますので、これらの問題がある患者さんに関してもお気軽にご相談ください。



リハ風景

診療部長のご挨拶

2022年4月より診療部長を拝命いたしました。リハビリテーション治療においては、院内の各診療科、各部署とのコミュニケーションが非常に重要と考えておりますので、治療中の患者で疑問点、問題点等ございましたらお気軽に御連絡ください。引き続きよろしくお願い申し上げます。

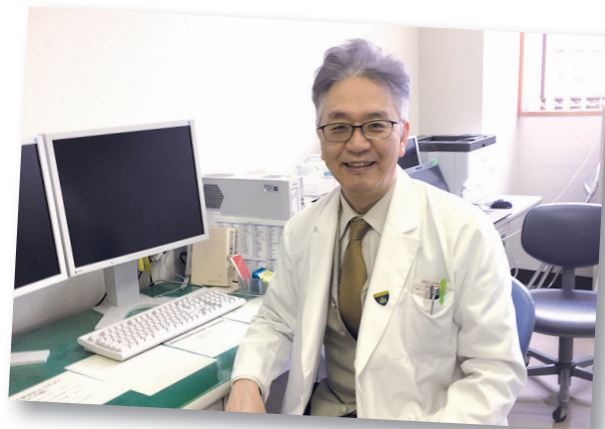
リハビリテーション科 診療部長 篠田 裕介
外来☎：049-276-1293

● 呼吸器内科 教授 杣 知行 (ソマ トモユキ)

当エリアの地域医療を支える医療機関の皆様、2021年12月1日付で埼玉医科大学病院呼吸器内科、予防医学センターの教授を拝命いたしました。私は1993年に日本医科大学を卒業し、同大学の呼吸器内科(当時第四内科)に入局しました。埼玉医科大学とのかわりには、2003年に埼玉医科大学総合医療センターに着任したことから始まります。2008年に埼玉医科大学病院呼吸器内科、アレルギーセンターに転任し、同教室で臨床と研究に従事し今日に至っております。

私はアレルギー性呼吸器疾患を中心に、一般呼吸器疾患やアレルギー疾患を専門として診療に従事しております。また予防医学センターでは疾患予防および早期発見の立場から、人間ドック診療に従事しております。アレルギー疾患は全世代の方々がかかると言っても過言ではない国民病ともいえるべき疾患です。周囲から理解が得られにくいアレルギー疾患もあり、先生方が診療に苦慮される場面もあるかと存じます。私は患者との相互理解を深めながら、高度医療を広く一般に提供することで、当エリアの医

療への貢献を今後も続けていく所存です。どうぞ紹介のほどをよろしくお願い申し上げます。



医師のご紹介

● 消化器内科 准教授 都築 義和 (ツツキ ヨシカズ)

消化器内科の診療には吐血、黒色便、下血を自覚する消化管出血や腹痛を自覚するような急性の疾患から逆流性食道炎、慢性胃炎(機能性ディスペプシア)、過敏性腸症候群、炎症性腸疾患

(IBD)などの慢性疾患、食道がん、胃がん、大腸がんなどの悪性疾患まで多岐にわたっています。私の外来の多くはIBDの患者さんで、その中には大統領や首相が罹患して有名になった潰瘍性大腸炎(UC)、クローン病(CD)などが含まれます。IBDは消化管難病に指定され厚生労働省でも班会議を設置し多くの施設から研究診療に関するデータが集積されていますが未だに原因不明です。しかし、最近では治療法の開発、創薬の進歩はめざましく、以前の腸管粘膜の炎症をとるアミノサリチル酸製剤やそれが無効の際のステロイドに加えて生物製剤と言われる抗体製剤や低分子化合物が開発され臨床現場で使用されています。また現在臨床治験中の様々なIBDの新薬が今後登場する予定となっています。腹部症状の鑑別、治療方針決定、また上下部・小腸内視鏡検査および治療、など消化管の検査・治療が必要な患者さんがいらっしゃいましたら是非ご紹介いただけますと幸いです。



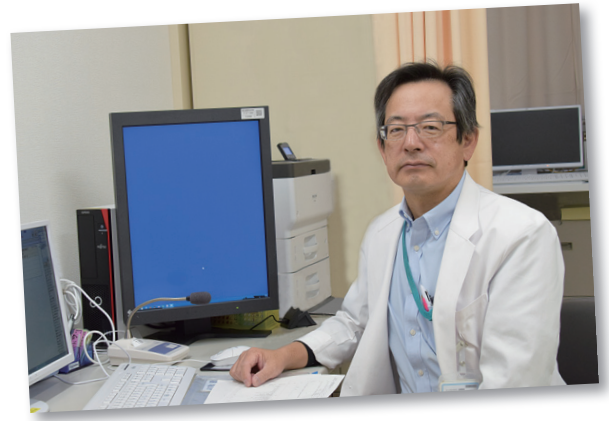
● 病院長からのメッセージ

消化管内科都築義和准教授は、消化器領域を幅広く診療していますが、特に炎症性腸疾患（IBD）を専門としています。IBDは若年層から高齢者まで罹患する原因不明の疾患ですが、最近患者さんが増加しており、当院でも特に力を入れている分野です。以前より広範な治療方法があり、都築先生は専門的知見に立った診療を数多く行っています。先生は温厚な人柄で、患者さんからの評判も高く、多くの方から信頼を得ています。

診断治療が難しいIBDの方や、原因不明の消化管出血など、お困りの患者さんがおられましたら是非ご紹介頂きたいと思っております。どうぞよろしくお願い致します。

呼吸器内科及び予防医学センター杉知行教授は、呼吸器疾患やアレルギー疾患の専門家で、幅広い診療に従事されています。ご存知のようにアレルギー疾患は、年齢も幅広く多くの領域、分野にまたがることから、当院では複数科が横断的な診療を行うべくアレルギーセンターがありますが、先生は同センターにおいても活躍中であり、同時に予防医学センターにおいても人間ドック中心に診療を行って

います。予防医学は今後当院においても益々発展させるべく計画中の分野で、地域の方々や医療機関の先生方と密接な連携が必要と考えています。杉先生を今後とも宜しくお願い致します。



● 看護部から

予防医学センター

予防医学センターでは、「すすめ健康寿命！」の基本理念を基に、健康で幸福で元気な生活を支援するため、医師、保健師、看護師、管理栄養士等の多職種で健康管理に関わる取り組みを行っています。人間ドックに加え、全国健康保険協会による生活習慣病予防健診、企業団体向けの定期健康診断、レントゲン車による巡回健康診断等を実施しています。また、当センターでは特定健康診査で生活習慣改善が必要な方を対象に、自分自身の生活を見直し、改善に取り組めるように、特定保健指導を行い今後の生活習慣病予防に繋げています。特定保健指導は、保健師と管理栄養士が関わり、現在の食事内容や量、運動状況を聴取することから始まります。その方に適した食事エネルギー量を計算し、体重や腹囲減少を目指し食事内容や調理方法、運動を一緒に考え、行動目標や計画を作成し生活改善の取り組みを行います。その後も個人面接や手紙等を通し、最後まで安心して生活改善に取り組めるように、励ましやアドバイスをさせていただきながら6ヶ月間サポートを行います。

健康診断は、健康的な人生を送るための第一歩です。私たちはこれからも皆様の健康を守るため、受けてよかったなと思えるような将来を見据えた健康支援を行っていきます。当センターのホームページに、健康情報として私たちが作成した予防医学センターだよりを掲載しておりますので、是非ご覧ください。



保健指導

予防医学センター
保健師 石井みき

カルナ（インターネット予約システム）について

提携医療機関・登録医制度について

埼玉医科大学病院と地域の医療機関とで、患者に一貫性のある適切な医療を提供するために相互が協力・緊密な医療連携を図ります。

提携医療機関・登録医、カルナシステム利用について

1. 「提携医療機関・登録医申請届」を提出してください。

▶カルナシステムを利用されたい方は、申請届の「カルナ希望 あり」に○をしていただき提出してください。

申請届をインターネットよりダウンロード

<http://www.saitama-med.ac.jp/hospital/cooperate/system.html>

プリントアウト

必要事項を記入

カルナ利用をご希望の方

郵送または FAX

当院より登録証を送付

※カルナ利用案内書類を同封し別途送付いたします。

新規カルナ登録医療機関 (R3.11 ~ R4.3)

大野眼科 クリニック	埼玉県 朝霞市	院長	大野 尚登
児玉 クリニック	埼玉県 さいたま市	院長	児玉 智博

提携医療機関から

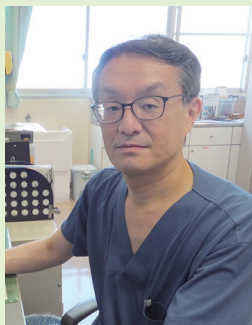
秩父市立病院(秩父市)

当院は、1966年の開設以来、秩父地域の中核病院として、高度医療・救急医療・地域に不足する医療の確保を追求し、地域住民の皆さんの健康維持・増進に重要な役割を担ってまいりました。また、医療機関及び介護・福祉施設との連携協力体制を構築することにより、「ちちぶ版地域包括ケアシステム」を推進し、医療・福祉の質向上を進めております。

カルナシステムの利用により、効率的に予約ができておりますが、2021年10月1日からは電話初診予約も可能となり、更に埼玉医科大学病院への紹介がスムーズにできております。

今後も、秩父地域の中核病院として地域住民の皆さんの期待に応えられるよう、更なる改善、充実を図ってまいります。

病院長：島村 寿男



医療機関情報

診療科目：内科、外科、泌尿器科（血液透析含む）、整形外科（リハビリ含む）、脳神経外科、小児科、麻酔科、循環器内科、消化器内科

外来診療受付時間：月曜日から金曜日
午前8時から12時まで
第2・4土曜日
午前8時から午前11時30分まで

休診日：日曜・祝日、第1・第3・第5土曜日、12月29日～1月3日

ホームページ：www.city.chichibu.lg.jp/1037.html



電話初診予約について

電話でご紹介頂く患者さんの初診予約を行います。

患者さん・ご家族および医療機関からの申し込みになります。

※「電話初診予約ご案内書」は、下記 URL よりダウンロードしてご利用下さい。

<http://www.saitama-med.ac.jp/hospital/cooperate/pdf/tel2021.10new.pdf>

①ご紹介患者さんの受診科が決まりましたら、紹介状と一緒に電話初診予約ご案内書を患者さんへお渡しください。お渡しいただく際に、患者さん自身で予約センターへ電話連絡の上、予約をとってから受診いただきますようご案内お願いいたします。

※ただし、予約枠の無い診療科がありますので、予めご了承ください。

なお、患者さん自身で電話予約ができない場合は、お手数ですが、医療機関様よりご連絡いただけますようお願いいたします。

受診当日に、初診窓口で紹介状等とともに電話初診予約ご案内書を提示していただくようお願いください。

受診後は、診察させていただいた医師より報告書をお届けいたしますので、ご確認をお願い致します。

埼玉医科大学病院 予約センター TEL：049-276-1179

受付時間 月曜日から土曜日（日曜・祝日を除く）午前8時30分から午後5時

救急患者のご紹介は直接、救急センターへご連絡下さい。

TEL：049-276-1199 FAX：049-295-8007

エンゼルクリニック(滑川町)

赤ちゃんと女性、皆さまの健康をサポートしたいと考え、滑川町に小児科、産婦人科と内科を併設したエンゼルクリニックを2006年に設立いたしました。地域密着型の当院が地域医療において担う役割は大きいと感じており、東武東上線つきのわ駅南口より徒歩1分という立地からも地域の皆様に受診しやすい診療所と考えております。カルナシステムは、地域医療から高度専門医療に繋げるための予約システムと考えており、また患者様からも待ち時間を短縮することが出来るためご満足しているお声を頂戴しております。当院では、地域のみなさまとの密接なおつきあいを通じて、これからもおひとりおひとりの立場に立った医療を心掛けていきます。

院長：中村 晃和

医療機関情報

診療科目：小児科、産婦人科、内科

外来診療時間：午前 9：30～12：00

午後 14：00～16：00（水曜日は午後 17：00 まで）

小児科：水曜日、土曜日は 9：00～、

婦人科：火曜日、水曜日、土曜日は 9：00～

休診日：日曜、祝日、火曜日午後

ホームページ：<https://www.nakamurasanfujinka.jp/annex.html>



埼玉医科大学 建学の理念

- 第1. 生命への深い愛情と理解と奉仕に生きる
すぐれた実地臨床医家の育成
- 第2. 自らが考え、求め、努め、以て自らの成長
を主体的に開展し得る人間の育成
- 第3. 師弟同行の学風の育成

埼玉医科大学の期待する医療人像

- 高い倫理観と人間性の涵養
- 国際水準の医学・医療の実践
- 社会的視点に立った調和と協力

埼玉医科大学病院の基本理念

当院は、すべての病める人に、満足度の高い医療を行うよう努めます。

病院の基本方針

1. すべての病める人々にまごころをもって臨みます。
2. 安心して質の高い医療を実践します。
3. まわりの医療機関と協力し合います。
4. 高い技能を持つ心豊かな人材を育成します。
5. より幸せとなる医療を求めた研究を推進します。

患者さんの権利

当院は、すべての患者さんには、以下の権利があるものと考えます。

これらを尊重した医療を行うことをめざします。

1. ひとりひとりが大切にされる権利
2. 安心して質の高い医療を受ける権利
3. ご自分の希望を述べる権利
4. 納得できるまで説明を聞く権利
5. 医療内容をご自分で決める権利
6. プライバシーが守られる権利

小児患者さんの権利

当院は、すべての小児の患者さんには、以下の権利があるものと考えます。

これらを尊重した医療を行うことをめざします。

1. こどもが最善の治療を受けて生きる権利
2. こどもが暴力から守られる権利
3. こどもが能力を十分に伸ばせるような医療を受ける権利
4. こどもが自分の診療について自由に意見を述べる権利

連携医療機関からの各種問い合わせ

救急センター : 049-276-1199
地域医療連携室 : 049-276-1876
予約センター(外来初診予約) : 049-276-1179

医療福祉相談室(退院調整) : 049-276-2119
入退院・患者支援室 : 049-276-1484
セカンドオピニオン受付 : 049-276-1121



埼玉医科大学病院 地域医療連携ニュース(14号)

発行 : 埼玉医科大学病院
発行責任者 : 篠塚 望
編集 : 埼玉医科大学病院広報戦略委員会・地域医療連携室
編集責任者 : 池園 哲郎・中里 良彦
電話 : 049-276-1876 地域医療連携室
住所 : 埼玉県入間郡毛呂山町毛呂本郷 38
発行日 : 2022年5月1日

※掲載している写真等は、関係者の同意を得ています。